

網走出張所 業務部紹介

はじめに

近年、社会経済の変化や産業構造の変遷にともない、公共投資資源の逼迫が顕在化するなか、社会資本の効果的かつ効率的な整備の推進が求められています。

網走出張所は、道路・河川・農業などの各種公共事業について調査・計画・設計・施工等に係る各種資料ならびに図書を作成し、関連事業の整合を確保した総合的な事業執行を支援し、発注者のパートナーとしてその役割を担っていきたくと考えています。

業務紹介 1

資料作成業務

●平成21年度実績

網走道路事務所管内 国有林協議資料等作成外一連
網走開発建設部管内 維持事業資料作成
網走川河川測量外 資料整理

公共用地の円滑な確保、諸制度の活用・拡充等による土地利用制約に対応する各種協議資料を作成します。

また、既存ストックの維持・修繕・適切な運用に向けた資料作成、地域特性の実情やニーズを踏まえた道路行政マネジメントの取り組みとして、道路利用者の満足度調査やアンケート調査等も行っています。

業務内容が、より高度化・多様化・複合化するなか、発注者の要求事項を確実に遂行するべく、本社ならびに各支店との連携をはかりながら、「迅速・高品質・確実」な成果の提供を実現します。



網走出張所

業務紹介 2

環境調査等業務

●平成21年度実績

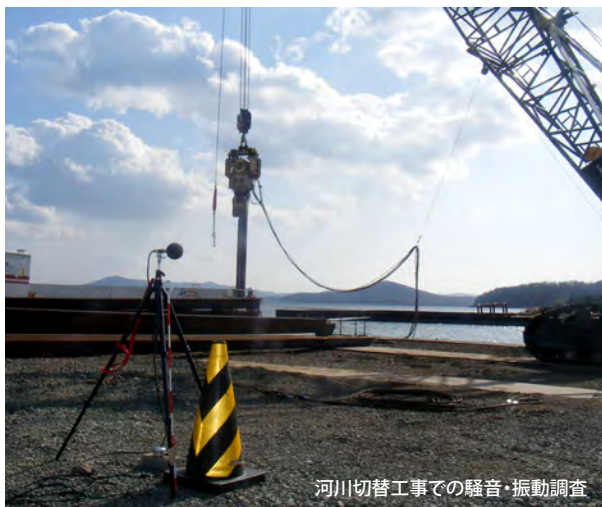
網走開発建設部管内 道路環境センサ調査
3・4・4 斜里網走通外改築工事(交付金)(家屋調査)
佐呂間別川 広域河川改修工事(芭露地区)(騒音・振動調査)

今日の環境問題の特質として、地球温暖化やオゾン層の破壊に代表されるように、地球的規模で対応すべき問題の顕在化と、経済、社会活動の拡大、生活様式の変化などを背景に、小規模な建設事業による環境への負荷に対しても一層厳しい目が向けられるようになっていきます。

このような問題への対応として、環境への負荷と事業実施の接点の下に、騒音・振動、水質汚濁等の環境にマイナスインパクトを与える諸要因について調査検討を行い、多種多様な条件に対応した手法を提案します。

また、各種事業における環境影響の予測と評価ならびに保全対策の検討、さらには「環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築」を目指して取り組んでいきます。

- ☆大気環境:大気質・騒音・振動・悪臭・その他
- ☆水環境:水質・底質・地下水・その他(河川流量)
- ☆その他:地質・地盤・日照障害・電波障害



河川切替工事での騒音・振動調査

事例 1

事業損失防止調査

事業損失とは、公共事業の施行により発生する騒音・振動、日照障害等による不利益、損失または損害をいいます。

公共事業の施行者は、可能な限り計画または工事上の配慮により損害等の発生を回避する責務がありますが、当該事業損失が不可避免的に発生した場合は、原因と結果との因果関係を証明する必要があります。

- ①因果関係の調査は、起因となる事象の質的・量的・時間的な実態と、結果との関連性を検討することになります。
- ②的確な判断、迅速な対応が要求される事業損失防止調査は、補償部門と連携のもと、蓄積した経験、人材等のストックを活用し、計画段階から実施にいたるあらゆる場面において適切な対策等を提案します。

事例 2

沿道環境対策の検証

地球温暖化防止のためのCO₂吸収源として、緑は大きな役割を担っています。

本事例では、広義には林帯、狭義には防雪林が持つ二次的機能としての環境保全機能を検証することにあります。環境保全機能には、大気浄化機能、騒音減衰機能、防風機能、防霧機能、動植物保全機能があるといわれていますが、ここでは騒音減衰機能を検証しました。

環境影響の評価にあたり「低減」から「回避」という整備水準を目標として、樹林帯と遮音壁の併用、その他の諸対策より環境影響を予測・評価し、環境保全措置を検討していくことが望まれ、そこに林帯の減音効果を定量化することは有意な資料として活用が期待されます。

・・・調査継続中です・・・



騒音測定